

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371600426		
法人名			
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	愛知県名古屋市中区原一丁目2006		
自己評価作成日	平成22年10月30日	評価結果市町村受理日	平成23年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371600426&SCD=320&PCD=23
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104		
訪問調査日	平成23年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス併設のユニットで、グループ利用の方の中に毎日一〜三名が加わり、毎日にぎやかに過ごされている。しっかりされている方、認知症状の進んだ方等様々ではあるが、利用者同士で諫めあったり、相談し合う場面も見られる。
職員は楽しく会話ができるよう、利用者の仲介を行い、出来ること、やりたいことが楽しくできるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは平成13年3月30日の開設から10年が経過し地域の高齢者介護を豊富な経験で支えている。また、地域の方が相談に訪れたり、地域の商店会への参加等地域住民との関わりを積極的に行っている。利用者本位の支援の提案・家族の介護の軽減等、利用者・家族に十分な説明を行い、話し合う中で、相互の信頼関係を築き上げ、利用者が事業所のシステムに満足できるように考え、さらに喜んでいただくように配慮する支援は、地域密着型サービス提供者の模範とも言える。また、事業所が自己満足になることのない利用者・家族本位の支援は、利用者の安心・安定につながり、家族の安心・満足に届いている。今後も、ますますの支援努力をお願いし、取り組みの充実に期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念につなげるべく実践目標を毎朝の申し送り時に唱和している。	利用者の尊厳を守り、一人ひとりが住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けられるように、家庭的な安心できる環境作りを重視し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物等外出した時に挨拶をし、友好を図っている。 利用者の作られた雑巾を、近くの調剤薬局に置かせてもらい、利用していただけるようにしている。	日常的な外出の機会に地域との係わりを持つように努めている。また、地域で行われる行事へ積極的に参加することでホームの活動の理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地下鉄側にあり、商店、マンションが多く、地域に広く生かすことは出来ないが、通りかかった方が相談に立ち寄られる事がある。また包括支援センターより見学にも来られる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方の、地域の情報、提案を活用させていただいている。	定期的に運営推進会議を実施し、ホームの活動報告等を行い、ホームの活動の理解を深めている。また、参加者から意見・要望等収集しサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉事務所と事業所、利用者の実状を相談し、援助していただいている。	地域包括センターから運営推進会議への参加もあり広域連合とも連絡は密に行われている。両機関との協力関係を築き様々な問題や疑問点の解消に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の玄関だけは施錠させていただいている。歩行困難な方には、布団に鈴を付け、ベッドの下にマットを敷き転倒転倒防止に努めている。	当たり前のことにならないように職員の意識の統一に努めており、身体的拘束排除の取り組みを実施しており、今年度は玄関の施錠を解除することが出来た。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行っている。また精神的にも安心していただけるよう、言葉遣いにも気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのな方もあり、学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明して、御質問はないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価でいただいた意見を参考にさせて頂いている。また面会時には意見、要望等お持ちでないかお聞きしている。玄関には無記名で意見を表せるように箱を用意している。	家族等が意見・要望を気軽に伝えることが出来るように玄関先に意見箱を設置している。また、家族来所時にも声かけを行い意見・要望の把握に努めている。収集した意見・要望に対し、迅速に対応を図りその後のサービスに反映することができるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や個別にも聞くように努力している。	管理者は、個別面談・会議はもとより日常的に職員が自然に意見が言える事業所風土を作っている。出された意見や提案は積極的に運営に反映させている。その結果職員のモチベーションは高くサービスレベルの向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人評価を設け、不公平にならないような給与体制をとっている。永年勤続者には、観劇券を進呈し、感謝の意を表している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所相互で研修を行い、リーダーがユニットで研修を行っている。社外研修も、希望者を募ったり、指名したりし、手当てを付け受けやすいように工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名会研の研修に参加したり、利用者が移られた、また移ってこられた施設を訪問している。社内他施設との勉強会、相談等、相互に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どういった暮らしがしたいか、ご家族、ご本人に希望をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活習慣、主治医、なじみの理美容等要望をお聞きし、安心して入居できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問マッサージ、福祉用具の必要性等、話し合いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の要望をお聞きし、実行できるように支援している。家事活動を一緒に行い、昔のやり方を教わったりして。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に電話で話し、散歩に出かけて頂いている、ご家族で通院介助される方もある外食、喫茶へ出かけたたり、外泊される方もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にご親族に極力顔を見せて頂けるようお願いしている。個別になじみの場所へ出かけるよう、支援している。	職員は利用者一人ひとりと何気ない会話の中から思いや希望を引き出し、外出等希望に沿った支援を行っている。また、ホームでは実現が難しいことでも、家族との協力で利用者の様々な要望に応えることができる体制づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考え、会話を楽しめるよう席を決めている。他の利用者の食器を下善して下さると、御礼を言ったり、力に応じた支え合いができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ行かれた方を訪問している。入院された方で、次の行き先の相談に乗る場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どういった暮らしがしたいか、ご家族、ご本人に希望をお聞きしている。	利用者本人の思いや意向を大切にしており、日々の生活の中で把握できるように努めている。また、日常生活の中でも利用者本位に考え支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣、主治医、なじみの理美容等要望をお聞きし、安心して入居できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	訪問マッサージ、福祉用具の必要性等、話し合いながら対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の要望をお聞きし、実行できるように支援している。家事活動を一緒に行い、昔のやり方を教わったりして。	定期的実施するカンファレンスにより介護の更新が検討されており、利用者の状況が変化した時にはその都度介護計画が検討され、常に適切な支援が提供できるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご家族にご親族に極力顔を見せて頂けるようお願いしている。個別になじみの場所へ出かけるよう、支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相性を考え、会話を楽しめるよう席を決めている。他の利用者の食器を下善して下さると、御礼を言ったり、力に応じた支え合いができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共交通機関を使って外出を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行い、希望に応じかかりつけ医を決めている。病変時には、かかりつけ医の提供している病院へ指示を仰いだり、お連れしている。	利用者・家族の要望に応じた医療機関で健康管理を行い、利用者に対し適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内や他事業所の看護師に、気づきを相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人の日頃の様子を伝えている。退院時には、病院側と情報交換、調整を行い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの介護を行っていないので、ベッド上でおむつ交換が必要になったら、特養を申し込んで頂くようお願いし、行き先が決まるまではお世話させていただくことを重ねて説明をしている。	利用者・家族の希望・要望の把握に努め事業所が出来ること、出来ないことの理解を求めている。また、利用者・家族にとって一番良い方法を一緒に探り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命救急士に来てもらい、実技講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行っている。駅前の商店が多い地域なので、協力体制はできていないが、法人が商店会に加入している。	定期的に消防訓練を行い、防災に対する職員の意識の統一を図り、災害時には利用者を迅速に避難誘導できるよう訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩との認識で対応するよう、心がけている。	利用者に対し不適切な対応とならないよう、日々の申し送りを通じ職員に伝えている。職員一人ひとりも利用者に対しプライバシーを損ねる声かけにならないよう、互いに注意しあい、不適切な対応にならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をお聞きしたり、二者択一にする等、自己決定できるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情観察をしながら、アクティビティーを提供している。うとうとされている場合は居室で仮眠をとっていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水、ヘアクリーム等準備し、使っていたいでいる。衣類を決める時、どれにするか、ご本人に確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けなど無理のない範囲で一緒に行っている。週に一、二度皆さんと話し合っていただき、好みの献立で食事を提供している。	利用者一人ひとりの力を見極め、できることに関しては主体的に取り組み、利用者にとって食が楽しみになるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算がされた献立を提供し、食事摂取量を確認している。口腔内の状態により、細かく刻んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけだけの方、介助の必要な方、それぞれに応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間ごとに誘導する方、声かける方、それぞれの力、パターンを知り、支援している。	職員間において、利用者一人ひとりの排泄パターンを「トイレチェック表」において把握し、尿意、便意を自ら判断する事が難しい利用者は、トイレまで誘導し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に冷たい牛乳を飲んでいただいている。おやつにヨーグルトを使用することも多い。排便感覚を把握し、冷たい牛乳、水等多めに飲んでいただいたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否されることも多いが、清潔を保てるよう言葉掛けを工夫している。よく室内で話をお聞きし、リラックスして入浴できるようにしている。	入浴に関しては、利用者のペースに合わせて入浴できるよう支援している。入浴中は職員も介助、見守りに徹し、安全に快適に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を確認し温度調整をしている。午睡をされる方も多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、服薬の重要性を認識しており、飲み込みまでの確認をしている。体調の変化も観察し、主治医に報告し、薬剤の管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事、楽しめる事、したいこと、等お聞きし、観察し、提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、買い物を楽しんでいただいている。行きたい場所などもお聞きし、地下鉄、バスを利用し、順次出かけて頂いている。年2度のバス旅行、ミカン狩りなど、季節ごとの外出には、ご家族、ボランティア様も参加される。	日常的に外出する機会を設け散歩・買い物等利用者一人ひとりに合わせた個別支援を目標に取り組みを行っている。また、家族と共にバスで遠足に出かける等家族やボランティアの協力で様々なニーズに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布があることで安心感のある方は、お預かりし時々確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をし、話をして頂いている。ご家族への連絡として、ご本人が自由に書くノートを準備し、面会に来られた時にお見せしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物やアクティビティーで作ったものを飾り、感想を話し合ったりしている。	利用者が集う共有空間は、季節感が感じられるように装飾等工夫している。また、開放感がある。訪問調査当日も利用者のリラックスした様子を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の決まった食卓のテーブルの他に、ソファがあり、人の体温を感じて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花、写真を飾れるようにご本人、ご家族と相談している。	居室内においては、利用者、家族の要望に応じて、家具等の配置を決めるほか、これまで使い慣れた物の持ち込みを可能とし、居心地良く快適に暮らせるよう本人の状態に合わせた居室となるように配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の居室、トイレ等わかるように大きく表示してある。歩行にふらつきのある方は、居室ベッドから共用の場所まで、伝わって歩けるよう工夫している。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	日常的な外出の機会に地域との係わりを持てるように努めている。また、地域で行われる行事へ積極的に参加することでホームの活動の理解を深めている。	○
重点項目②		評価
	定期的に運営推進会議を実施し、ホームの活動報告等を行い、ホームの活動の理解を深めている。また、参加者から意見・要望等収集しサービスの質の向上に努めている。	○
重点項目③		評価
	地域包括センターから運営推進会議への参加もあり広域連合とも連絡は密に行われている。両機関との協力関係を築き様々な問題や疑問点の解消に努めている。	○
重点項目④		評価
	家族等が意見・要望を気軽に伝えることが出来るように玄関先に意見箱を設置している。また、家族来所時にも声かけを行い意見・要望の把握に努めている。収集した意見・要望に対し、迅速に対応を図りその後のサービスに反映することが出来るように努めている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは平成13年3月30日の開設から10年が経過し地域の高齢者介護を豊富な経験で支えている。また、地域の方が相談に訪れたり、地域の商店会への参加等地域住民との関わりを積極的に行っている。利用者本位の支援の提案・家族の介護の軽減等、利用者・家族に十分な説明を行い、話し合う中で、相互の信頼関係を築き上げ、利用者が事業所のシステムに満足できるように考え、さらに喜んでいただくように配慮する支援は、地域密着型サービス提供者の模範とも言える。また、事業所が自己満足になることのない利用者・家族本位の支援は、利用者の安心・安定につながり、家族の安心・満足に届いている。今後も、ますますの支援努力をお願いし、取り組みの充実に期待するところである。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域とのつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示)
3. 運営推進会議を活かした取り組み	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
	(例示)
4. 市町村との連携	① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示)
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。